事務事業評価＆総合計画実施計画調査シート

	コード	名　　称	区分	コード	名　　称
事業名	159	市史編さん事業	会計	01	一般会計
			款	02	総務費
基本施策	36	歴史や文化を守り、未来へと引き継ぐ	項	01	総務管理費
			目	17	市史編さん費
施策	7	市史の編さん	細目	101	市史編さん事業
			細々目	01	市史編さん事業

基本計画該当頁	143	行革大綱の重点事項番号	7
担当部課 コード	010100	評価者氏名	岡 部 隆 次
担当部課 名称	総務部総務課（市史編さん係）	連絡先	52 - 4380 (内線)

事業種別	継続	単独	事業類型	I	ソフト事業	2次評価対象分

事業の計画・内容

	対象等（何を、誰を）	成果（どうなるのか）
事業目的	ふるさと学習や郷土史を研究し伊賀市の歴史に興味をもつ市民全般（児童から大人まで）と、市内外の研究機関・事業所・寺社等 （※対象件数　　）	伊賀市の歴史的な発展を明らかにして、郷土に対する関心と正しい理解を深めます。市史編さん過程で収集した貴重資料の散逸を防ぎ資料を整理・保管します。

根拠法令・要綱等	伊賀市史編さん要綱		
開始年度	平成　16　年度	関連事業	三重県史編さん事業
終了年度	平成　27　年度		

本年度事業内容	●市史編さん及び発刊作業＝『資料編古代・中世』の19年度発刊に向けて、史料調査・翻刻、史料ｶｰﾄﾞ作成、掲載資料の抽出、原本校正、史料綱文の執筆活動などを行った。●編さん史資料の調査・収集作業＝史資料調査・整理、マイクロフィルム写真撮影、資料目録作成、新聞・行政資料の収集・整理、伊賀地域研究論文等の収集などを行った。●市史編さん委員会2回、編集委員会3回、各時代の専門部会延べ11回を開催し、編さんの基本方針や計画ならびに編集方法等を検討・確認した。●『広報いが市』に「市史編さんだより」を4回掲載した。	状況変化等	事務事業の改善等により平成17年度に128万円（6.6%）、平成18年度に318万円（13%）の経費を削減したが、繁忙が予想される平成19年度に向けて臨時職員雇用の要望が実現せず、正規職員の超過勤務と人件費の増嵩が懸念される。

整備内容

1 建設用地	
2 建設面積（延床面積）	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制

1 運営主体	□直営　□指定管理　□民間委託等
委託先	（　　）
2 配置（予定）人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の類似施設	

事業実績

活動指標	単位	実績値 H17		実績値 H18		目標値 H19	目標値 H20
市史編さん及び発刊	巻	目標	—	目標	0	1	0
		実績	0	実績	0		
史資料の調査・収集	点	目標	—	目標	5,000	5,000	5,000
		実績	8,090	実績	16,140		
委員会・専門部会の開催	回	目標	—	目標	15	15	15
		実績	9	実績	16		

評価指標

事業の成果を測る指標	指標設定の考え方	単位	実績値 H17		実績値 H18		目標値 H19	目標値 H20
伊賀市史各編の発刊巻数（累計）	『伊賀市史』計7巻を、刊行計画に則り年次的に発刊していく達成（累計）割合	%	目標	0	目標	0	14	14
			実績	0	実績	0		
伊賀市史各編の有償・無償配布数（累計）	伊賀市史各編の有・無償配布累計冊数をもって事業成果の達成度合いとする。	冊	目標	0	目標	0	350	550
			実績	0	実績	0		

評価

評価項目	ポイント	評価項目についてのコメント
必要性	4	市の正規職員が直接市民宅へ出向き、資料提供をお願いしてこそ資料が収集できる。提供資料の中には個人情報に関わるものも多く、その個人情報も行政が行う事業であるが故に守られる。民間での事業展開ではそれらの点に問題があり、商業ベース中心の質の低下が危惧される。また、資料は日々散逸する。一刻も早い資料収集と編さんが必要である。
有効性	3	評価指標の平成17･18両年度の実績値から見ると目立った有効性を見出す事ができないが、両年度を通じて行った事務事業の結果、平成19年度に発刊の『資料編 古代･中世』に掲載する資料が抽出されて、平成19年度当初には計画どおり原稿の入稿が出来た。
達成度	4	伊賀市史刊行計画どおり順調に進捗している。第1回の『伊賀市史 資料編 古代･中世』配本を平成20年3月末に予定している。
効率性	3	事業の性格から、投資したコストに見合う効果が直接すぐに現れてこないが、正規職員の削減や臨時職員の不採用で人件費は抑制されており、業務委託先の伊賀市歴史研究会の委員・調査員等の報償費・旅費等も削減に努めていることから、今後のコスト縮減の余地は少ないと考えられる。

総合評価	事業の方向性	改善についての取り組み
A	現状維持	伊賀市歴史研究会への業務委託料の大半が人件費と旅費であり、新たな資料の発掘があれば経費は増加するという傾向にあり、計画的な一律の経費の削減は出来ないが、より効率性が向上するよう経費削減に努力する。 将来の検討課題として、業務の大半を伊賀市歴史研究会に委託し正職員を減員出来るか検討する。 『上野市史』をはじめとする既刊本の販路拡大・販売促進に努め、歳入の増加を図る。

進捗状況	平成17年度 決算内容				平成18年度 決算内容			
年度	事業内容	数量	単位	金額	事業内容	数量	単位	金額
委託				(千円)				(千円)
	報酬・報償費			159	報酬・報償費			168
	賃金・共済費			0	賃金・共済費			0
	旅費			71	旅費			19
工事	需用費			2,085	需用費			1,444
	委託料			15,626	委託料			22,039
	備品購入費			230	備品購入費			827
進捗率(%)	事業費計(A)		Σ	18,171	事業費計(A)		Σ	24,497
事業投入人員	人件費（B）	1.6	人	11,520	人件費（B）	1.7	人	12,240
フルコスト　(A)＋(B)				29,691				36,737

進捗状況	平成19年度 計画内容				平成20年度 計画内容			
年度	事業内容	数量	単位	金額	事業内容	数量	単位	金額
委託				(千円)				(千円)
	報酬・報償費			222	報酬・報償費			222
	賃金・共済費			0	賃金・共済費			1,600
	旅費			98	旅費			80
工事	需用費			9,352	需用費			1,250
	委託料			17,602	委託料			22,600
	備品購入費			717	備品購入費			250
進捗率(%)	事業費計(A)		Σ	27,991	事業費計(A)		Σ	26,002
事業投入人員	人件費（B）	1.8	人	12,960	人件費（B）	1.7	人	12,240
フルコスト　(A)＋(B)				40,951				38,242

進捗状況	平成21年度 計画内容				平成22年度 計画内容			
年度	事業内容	数量	単位	金額	事業内容	数量	単位	金額
委託				(千円)				(千円)
	報酬・報償費			222	報酬・報償費			222
	賃金・共済費			1,600	賃金・共済費			1,600
	旅費			80	旅費			80
工事	需用費			9,500	需用費			9,500
	委託料			22,600	委託料			22,600
	備品購入費			250	備品購入費			250
進捗率(%)	事業費計(A)		Σ	34,252	事業費計(A)		Σ	34,252
事業投入人員	人件費（B）	1.7	人	12,240	人件費（B）	1.7	人	12,240
フルコスト　(A)＋(B)				46,492				46,492

事業費（人件費除く）の財源内訳

		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
(A)	事　業　費	18,171	24,497	27,991	26,002	34,252	34,252
Aの財源内訳	国庫支出金						
	県支出金						
	地方債						
	受益者負担						
	その他	1,832	670	1,014	1,000	750	750
	一般財源	16,339	23,827	26,977	25,002	33,502	33,502
	計	18,171	24,497	27,991	26,002	34,252	34,252
備考	その他特定財源の名称・補助基本額・率 地方債の区分と充当率等	雑入（書籍等売払代金）	雑入（書籍等売払代金）	雑入（書籍等売払代金）	雑入（書籍等売払代金）	雑入（書籍等売払代金）	雑入（書籍等売払代金）